

2010 愛知県スキー連盟 C 級検定員検定

2010 年度 愛知県スキー連盟 C 級検定員検定会 理論検定問題

1. 下記は検定の「検定員制度の役割」について述べたものです。() に入る適当な語句を記しなさい。

全日本スキー連盟の目的である“スキースポーツの普及と振興”を教育本部では(①)と(②)を二本柱として普及を図ってきました。スキースポーツをより幅広く、より楽しむための手段として、学ぶという指導の研鑽過程で(③)を確認していくため、また、挑戦意欲を高めるために(④)を受け、さらに(⑤)を図ることを目的としています。

そして、スキー検定は、スキーヤーの目的や指向によって(⑥)と(⑦)の二つに分けられます。指導者育成事業の具体的な目的として、資質の高いスキー指導者を育てる(⑧)。また指導過程での技術レベルの向上を知ること、進歩の喜びを実感できる(⑨)です。技能を高める技術指向としての(⑦)や、指導者としての活動を目指す(⑥)において、その検定にあたる運営の総ては(⑩)の双肩にかかっていると云っても過言ではありません。なぜなら、タイムという絶対値によって優劣を争うアルペン競技と違い、スキーヤーの滑りの質を観点として評価するテストだからです。したがって、(⑪)しても不合格になっても(⑫)テストが行なわれることが大事ということになります。

2. ジュニア・テストの実技種目と斜面設定について、下記の表の() に適当な語句を記しなさい。

テスト区分	実技種目	斜面設定
1 級	(①)	中急斜面・整地
	(②)	(③)
	(④)	中級コース
2 級	大回りターンが連続してできる	中斜面・整地
	小回りターンが連続してできる	(③)
3 級	大回りターンが連続してできる	中斜面・整地
4 級	初歩的な大回りターンができる	(⑤)
5 級	(⑥)	緩斜面・整地
6 級	プルークで大回りができる	緩斜面・整地

3. 級別テストの実技種目と斜面設定について、下記の表の() に適当な語句を記しなさい。

テスト区分	実技種目	斜面設定
1 級	パラレルターン大回り	(①)
	パラレルターン大回り	(②)
	パラレルターン小回り	(②)
	パラレルターン小回り	(③)
	フリー滑降	(④)
2 級	パラレルターン大回り	中急斜面・ナチュラル
	パラレルターン小回り	(⑤)
	フリー滑降	(④)
3 級	(⑥)	中斜面・整地
	(⑦)	中斜面・整地

2010 愛知県スキー連盟 C 級検定員検定

4 級	(⑥)	緩中斜面・整地
5 級	初歩的な大回りターンができる	(⑧)

4. 下記は検定の「評価の観点の理解」について述べたものです。() に入る適当な語句を語群より選び記しなさい。

公認スキー検定員を受検するにあたっては、「技術を評価する」というのは、検定の場面だけでなく、指導の現場でも評価は大切なもので、学習過程の段階や学習の仕組みは指導者に欠かせない知識になります。スキー指導者は、スキー技術に優れているだけではなく「より高い (①)」に加え「より深い (②)」、「より幅広い (③) と豊かな (④)」をそなえていること、そして正しい (⑤) の提供者としての役割が求められます。

学習対象者に対する技術評価が、その時々的確に行われることで、対象者の (⑥) が喚起されます。そして指導者としては、指導と評価の (⑦) が図られる日頃の (⑧) が重要になります。

技術評価の観点をとらえていくと、「スキー技術の構造とスキー運動の原因」を確認することが大切です。

指導課程においては、指導者は常に学習者の動きを観察し、学習の成果を確認することが大切です。

その観点には、「運動の質的な内容の変化」と「運動の形態的な変化」があります。

(1) 質的な変化

運動の質は、三つの要素でとらえられる。

① 体の動きの空間的調節 < (⑨) >

運動に適したバランスの良いポジション<フォーム>を表現しているかどうか。

② 体の動きの時間的調節 < (⑩) >

動きの構成がタイミングよく行われているかどうか。

③ 力の調節 < (⑪) >

力の強弱リズムが滑らかに表現されているどうか。

(2) 運動の形

(⑫) とスキーポジションの取り方に主な観点がおかれます。

以上の内容から、検定の着眼点としては「運動の (⑬)」、「運動の (⑭)」、そして全体的な観点として、「(⑮) と弧のコントロールを中心にした状況への (⑯)」を設定しています。

・学習意欲	・タイミング	・グレイディング	・人間性	・構成
・知識	・質的内容	・指導実践	・一体化	・対応能力
・指導技術	・教養	・スタンス	・スペイシング	・情報

5. 下記は、「谷回り」のメカニズムである<フェース・コントロール>について述べたものです。() 内に当てはまる適切な語句を語群より選び記しなさい。

フェース・コントロールはスキー板の (①) であり、「谷回り」を理解する上での新しい鍵となる概念である。スキーの身体運動の考え方は、重力活用を基盤に、(②) から (③) へと進化してきた。このことを契機に、スキーお技術構造も必然的にパラダイム転換が求められることになる。(②) つまり脚部の運動が主流の場合は、(④)、(⑤) そして (⑥) の調整が重要な役割を果たしてきた。しかし、(③) においては、体幹部による (⑥) のコントロール、つまり (⑦) をどのように使う (制御する) かがもっとも重要な技術課題となっている。

2010 愛知県スキー連盟 C 級検定員検定

谷回りにおける (7) をどのように使うかは、重力のスキー横軸に沿う力によって行われる。つまりスキー板の面によって水平面（遠心力がある場合は相対的水平面）への荷重が行われることになる。

谷回りの前半は (8) によるフェース・コントロールが、谷回りの後半は (9) によるフェース・コントロールがより重要な機能を果たすことになる。

・内脚	・外脚	・末端主導	・回旋	・重さ
・角づけ	・体幹主導	・荷重	・面のコントロール	・質

6. 公認スキー検定員規程に示されている〈資格の停止〉、〈資格の喪失〉の各条文を記しなさい。

7. 公認スキー指導者検定規程に示されている〈公認スキー指導者検定の種類〉を記しなさい。

8. 公認スキー検定員規程に示されている〈検定の範囲〉を記しなさい。